©2019 GUSHIKEN,Tohru

学習スケジュールの立案例（追加分）

以下は，本書（ポケットスタディ プロジェクトマネージャ[第2版]を使って本試験に合格したDさんの学習スケジュールです。学習スケジュールを策定する際の参考にしてください。

●ベテランプロジェクトマネージャDさんのケース

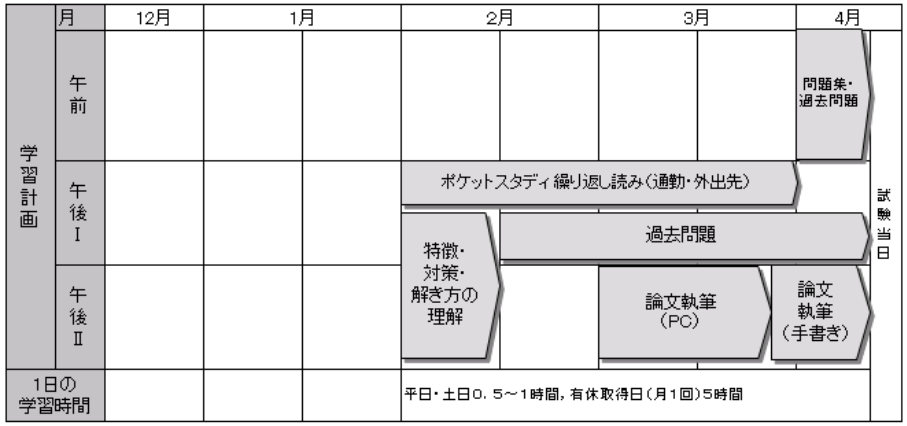
プロジェクトマネージャ試験　合格体験記

合格した年度	平成29年度
受験回数	1回

業務経験	情報システムの企画・開発・運用等	16年
	プロジェクト管理	5年
	上記の一部もしくは補佐	1年

得点	点数（午前Ⅰ）	免除
	点数（午前Ⅱ）	88点
	点数（午後Ⅰ）	76点
	評価（午後Ⅱ）	A

使用した教材等	本書（ポケット スタディ プロジェクト マネージャ 第2版）
	過去問題（午前Ⅰ，午後Ⅰ・Ⅱ）と解説
	午前問題集



午前試験分野について

解いた過去問題／解いた回数	平成27年度	1回	私の学習方法	試験2週間前から対策開始。 まずは、2年前の情報セキュリティスペシャリスト受験時に購入した午前問題集を流し読み。 その後、左記の過去問題で腕試し。自信をつけた。

午後Ⅰ試験分野について

解いた過去問題／解いた回数	プロジェクト統合マネジメント、プロジェクト・スコープ・マネジメント、プロジェクト品質マネジメント、プロジェクト人的資源マネジメントの4分野から10題	各1回ずつ	私の学習方法	諸事情により十分な勉強時間の確保が困難であったことから、机に向かって解く過去問題はプロジェクト統合マネジメント、プロジェクト・スコープ・マネジメント、プロジェクト品質マネジメント、プロジェクト人的資源マネジメントの4分野に選択・集中。 これらの分野は、本書の『午後Ⅰ・Ⅱ試験問題の出題傾向と学習優先度』に記載されている"学習の優先度"の星印の数を参考に選択した。 また、通勤や家族との外出先などのスキマ時間を使って本書『午後Ⅰ問題演習』を読み込み、左記分野以外についてもイメージトレーニングをした。

午後Ⅱ試験分野について

論文を執筆した回数	合計5回	私の学習方法	まとまった勉強時間の確保が困難であったことの対応策として、まずはPCで論文の草稿を作成し、それをクラウドサービスに保存した。これにより自宅PCで作成し始めた論文を自宅以外から作成を再開したり、移動中のスマートフォンから参照することが可能となった。 この要領で4本を作成した後、試験1ヶ月前からは腕の筋肉を鍛えるため短時間で原稿用紙に書き写した。さらに試験直前には予行演習としてPCを使用せずに1本作成し、総仕上げとした。

本書をご購入頂きました皆様へ

本書の活用方法	試験勉強期間中のライフイベントにより、私は十分な勉強時間の確保が困難であったが、本書を活用することで合格した。 本書は資格試験合格プロジェクトにおけるマネジメント計画書である。提唱されている学習計画は定量的・論理的で納得感があり、これを実践することでKKD（感・経験・度胸）に頼った勉強法から脱却できる。 本体験記に記載した私のやり方は変則的であり、一般的には勧められないが、困難な状況であっても本書に可能な限り忠実に、最後まで諦めず取り組めばチャンスはある。

（筆者コメント）

実務経験が豊富なベテランプロジェクトマネージャDさんは，過去に高度情報処理試験の合格経験もあることから「しっかりと学習すれば合格できる」という自負がありました。ところが，人生における重要なライフイベントが発生し，十分な学習時間を取れないという事態に直面します。一旦は受験を見送ろうとしましたが，本書の学習ナビゲーションに着目し，最短の学習時間での合格に挑戦します。

自信がある午前Ⅱ試験は**思い切って後回し**にし，午後Ⅰ試験については本書のナビゲーションに記載の『学習優先度』から，**特定分野に絞って学習**。午後Ⅱ試験では，**PCとクラウドサービスを活用して論文設計力**をつけ，これを**書き写すことで筋力を増強**。以上をもって本試験に挑み，見事に一回で合格されました。

本書の分析情報の信頼性を自分で判断し，活用しつつも過信はせず，自分にとって更に効率的な方法を考え続けた結果が合格に繋がったものと思われます。